

やさしい日本語でコミュニケーション！

6月30日（火曜日）、杉並区立産業商工会館（阿佐谷南3-2-19）では、外国人とやさしい日本語でコミュニケーションをとる講座が開催されました。この講座は、杉並区交流協会が主催したもので、日本語教師の深田みのりさんが講師となり、30名の参加者が実際に外国人を相手にコミュニケーションを楽しんでいました。

平成14年7月に、文部科学省は『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想を策定しました。この戦略の中で、日本人の多くが、英語力が十分でなく外国人との交流ができていない。また、国際的な評価をえられていない現状が書かれていました。この後、計画に基づき小学校から大学の教育の中で英語力向上の取り組みがなされてきました。

国の取り組みから10年が経過しましたが、まだまだ英語で上手にコミュニケーションが取れる人は少数派です。その一方、2020年には東京オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定し、大会に向けて世界中の国から、多くの外国人が訪れることが見込まれています。



杉並区には、大会関連施設は予定されていませんが、観光を楽しみに多くの外国人が来ることが期待されています。そんな時、せっかく来てくれた世界中の方々と英語が話せないということで交流を敬遠してしまっただけでは、五輪開催の意味がありません。

そこで、杉並区交流協会が開催したのが、区内在住の外国人のボランティアの参加による、外国人とのコミュニケーション講座です。この講座では、やさしい日本語で、まず、外国人とものおじせずに、コミュニケーションを取る方法を学ぶもので、今回は、30人が参加しました。講師の深田さんから、「外国人＝英語ができるではない。外国人は、日本人のYESかNOがはっきりしない。遠回しな表現が困っている。」が示され、「簡単でわかりやすい日本語を使えば、アメリカ人でも中国人でも、おおよそ何を言いたいかは理解できます。ぜひ、外国語ができないからと尻込みせず、外国人との会話を楽しんでほしい。」と話していました。

講座には、カナダ、ネパール、メキシコ、中国、モンゴルから来日して区内に住んでいる外国人6人がボランティアとして参加。深田さんの説明のとおり、講座の参加者と日本語と片言の英語で話し合い、一緒にコミュニケーションをとる方法を学んでいました。